

RIETI BBLセミナー

観光学部の設置とその概要

The Foundation and Outlines of the Faculty of Tourism
in Wakayama University

平成21年4月28日
国立大学法人和歌山大学
学長 小田 章
Akira Oda, President

The National University Corporation Wakayama University



国立大学法人
和歌山大学

観光学部設置に至る経緯

2004 (H16). 5月末	学長による観光学部設置構想の発信
2004 (H16). 7月	第1回文部科学省交渉 (計13回)
2006 (H18). 6月	経済学部 観光学科設置申請
2007 (H19). 4月	経済学部 観光学科設置
2007 (H19). 6月	観光学部設置申請
2007 (H19). 12月3日	観光学部設置認可
2008 (H20). 4月	観光学部設置

「観光学部」設置の趣旨・必要性

- ◆ 法人化後の大学の基盤強化(総合大学化構想)
- ◆ 地域再生・地域振興への貢献
- ◆ 大学の個性化・ブランド化
- ◆ オンリーワン分野の構築
- ◆ 《未来型高等教育システム》の開発
- ◆ 県内高等教育機関の整備

なぜ学科でなく学部なのか？

◆教員組織の充実・拡大を図るため

【なぜ？】 i 人材育成 ii 観光学の確立 iii 地域貢献

◆大学のアピールを強めるため

◆オンリーワン分野の確立

【観光関連教育・学術機関】（当時）

- ❖ 大学は1つ
- ❖ 学部は5つ
- ❖ 学科が30前後
- ❖ 国立大学法人では学科が2つあるのみ
- ❖ 専門職大学院
 - 北海道大学
 - 立命館アジア太平洋大学に設置（大分県別府）

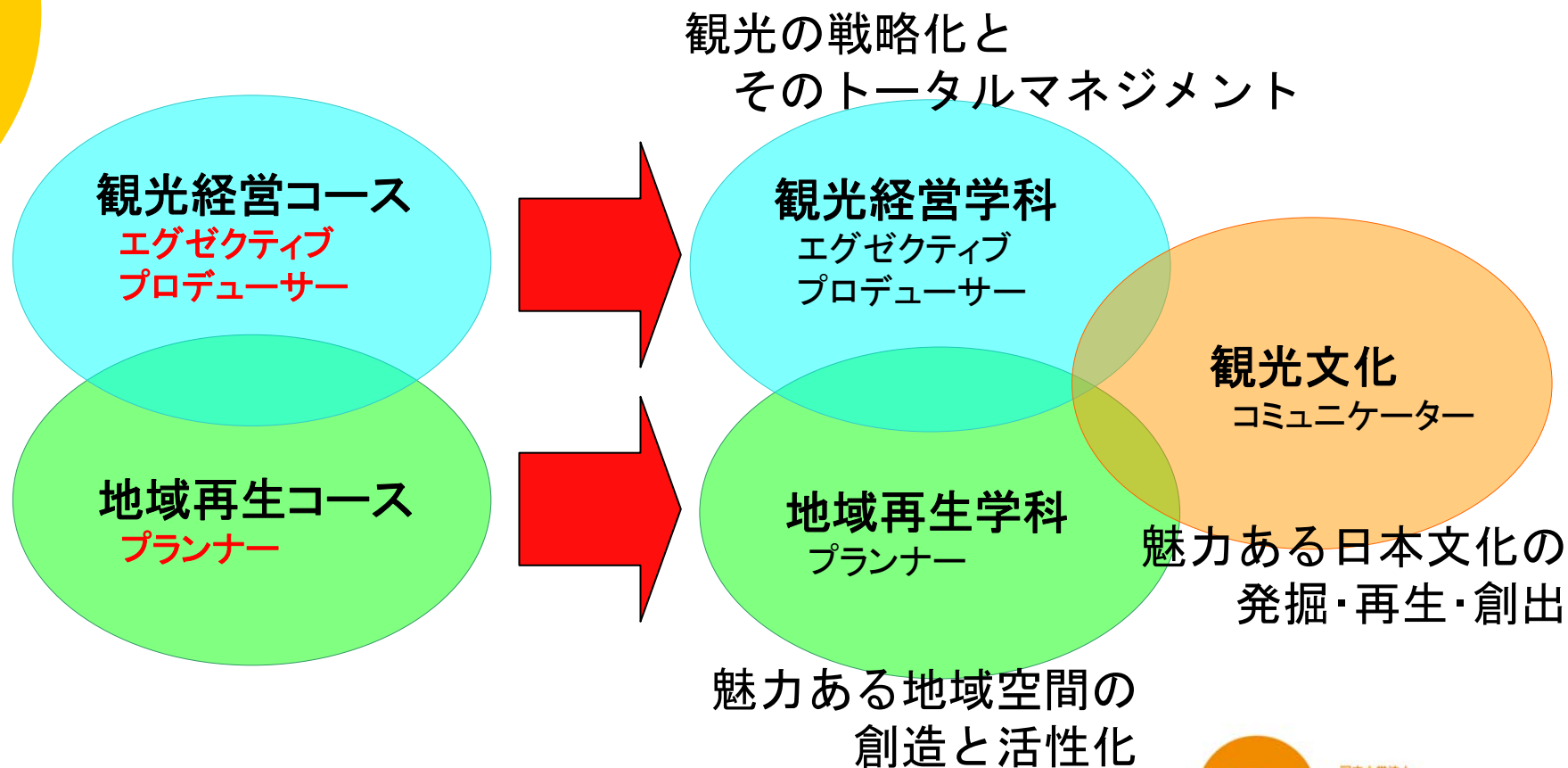
⇒学部設立は国立大学法人では、
和歌山大学(観光学部)と
琉球大学(観光産業科学部)の二つ

観光学部の概要

(1) 学科から学部へ

学科(H19)

学部(H20)



観光学部の概要

(2) 人材育成に応じた学科構成

◆ 観光経営学科

- 概要
 - ❖ 観光産業の経営
 - ❖ 集客交流のマーケティング
 - ❖ ホスピタリティー
- 人材育成モデル
 - ❖ 観光プロデューサー
 - ❖ 観光エグゼクティブ

◆ 地域再生学科

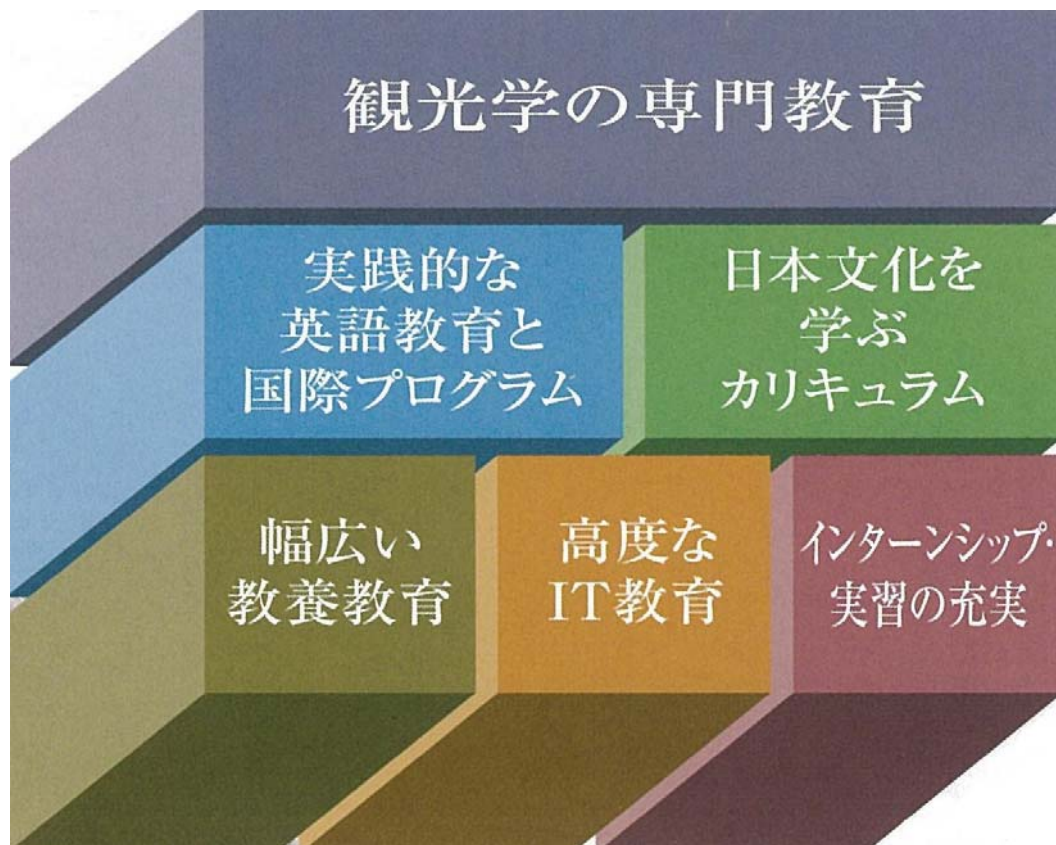
- 概要
 - ❖ 観光振興によるまちづくり・地域再生
- 人材育成モデル
 - ❖ 観光地域プランナー

◆ 観光文化講座（共通講座）

観光学部の概要

(4) 特色ある教育システム

概念図



観光学部の概要

(4) 特色ある教育システム

- ◆ 教養力，コミュニケーション力の醸成
- ◆ リベラルアーツの充実と情報処理能力の習得
- ◆ 完全なセメスター制とGPA制を実施する
- ◆ 3年次卒業および学部・大学院の一貫教育を可能にする
- ◆ エクステンション講座の開設
- ◆ インターンシップの義務化や海外インターンシップの実施
- ◆ e-learningシステムによる海外大学とのDistant授業
- ◆ 充実した専門的能力の醸成
- ◆ 外国語による講義の導入
- ◆ その他

観光学部の概要

(5) 研究上の特色

① 様々な領域・分野と関連するのが観光学

観光メリーゴーランド



観光学部の概要

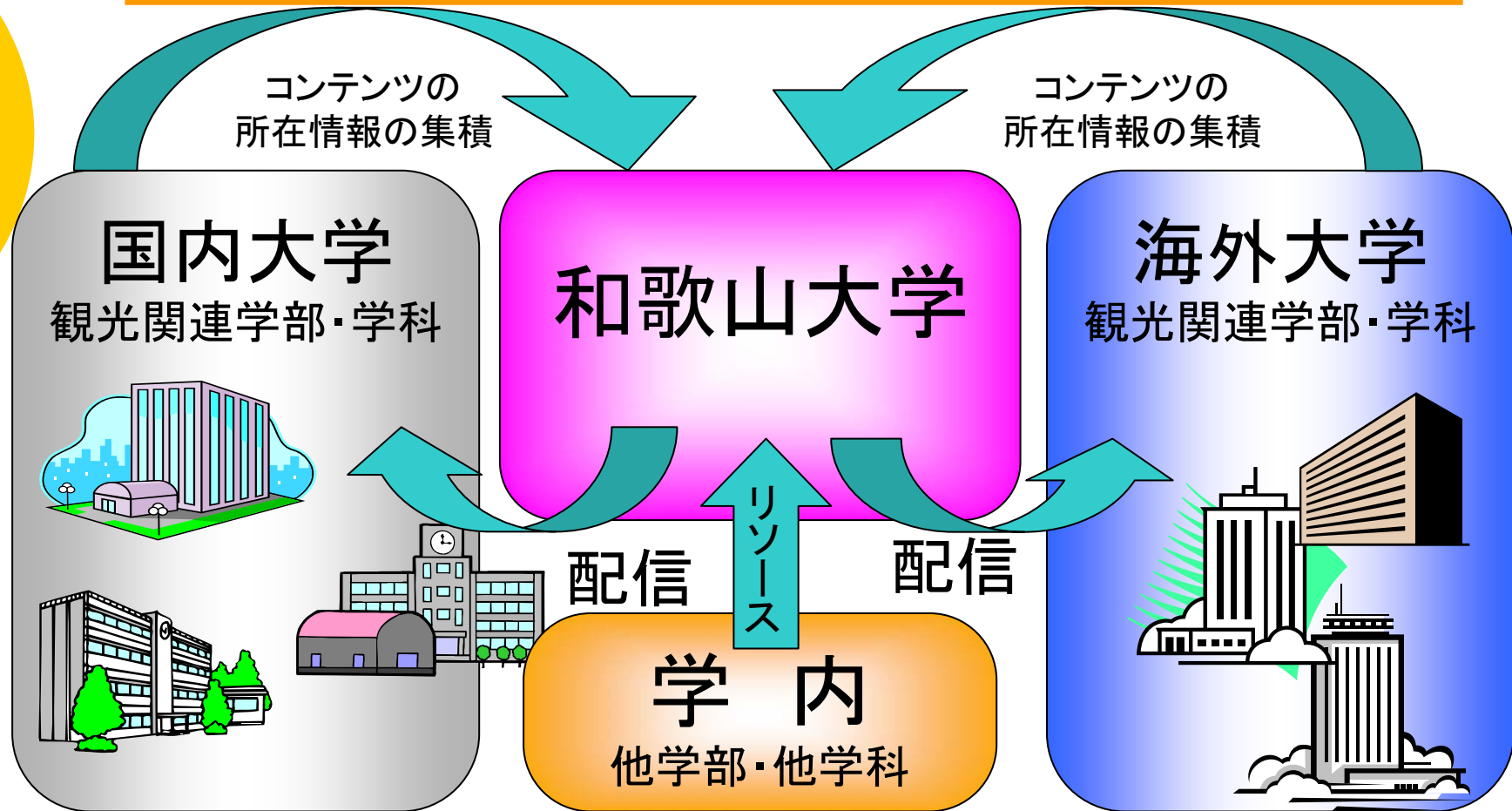
(5) 研究上の特色

② 多様な分野の研究者集団

経済分野	2	文学分野	2
経営分野	6	音楽分野	1
マーケティング分野	2	天文分野	2
会計分野	1	デザイン分野	1
法律分野	1	その他	2
環境分野	1		
農業・林業分野	2		
情報分野	1		
地域防災分野	1		

(5) 研究上の特色

③徳永文部科学省大臣官房審議官(高等教育局担当)(当時)提唱による**未来型教育システム**



文化・社会的な観点からのアプローチも含めた幅広い分野から構成される観光学の形成とそれらを学生に対して適切に提供するためのリソースの収集と配信システムの確立

観光学部の概要

(6) 実践的な英語教育と国際プログラム

- ◆ 「観光」と直結した英語運用能力を、体系的に習得するカリキュラム

英語エクステンション講座の組み立て

1年生前期	1年生後期	(1週間4コマ)
コミュニケーション I、II	コミュニケーション III、IV	
(Tourism)	(Tourism)	
TOEFL I	TOEFL II	
TOEIC I	TOEIC II	

2年生前期	2年生後期	(1週間3コマ)
コミュニケーション V	コミュニケーションVI	
(Presentation)	(Presentation)	
TOEFL III	TOEFL IV	
TOEIC III	TOEIC IV	

観光学部の概要

(6) 実践的な英語教育と国際プログラム

◆ 観光学部関連海外大学協定

オーストラリア	：カーティン工科大学、クイーンズランド大学
フランス	：ユーロメッド・マルセーユ、パリ・ディドロ大学
イギリス	：サリー大学
アメリカ	：セントラルフロリダ大学、ハワイ大学
中国	：東北財経大学、山東大学
マレーシア	：マラ工科大学
スペイン	：サラゴッサ大学
イタリア	：ボッコーニ大学

◆ 留学をはじめ国際プログラムの充実

◆ 観光ニーズの高い中国語・ハングルも学習

観光学部の概要

(7) 日本文化を学ぶプログラム

日本の伝統文化や芸能をはじめ、
「日本」を伝える知識と能力を習得

- ◆ 伝統芸能論
- ◆ 着物文化論
- ◆ 茶道論（表千家・裏千家）
- ◆ 華道論
- ◆ 日本語作法 I・II

観光学部の概要 (7) 日本文化を学ぶプログラム

着物文化論



茶道論



華道論



観光学部の概要

(8) その他、観光学部の特色

◆幅広い教養教育

リベラルアーツを重視した、教養・基礎教育を展開

◆インターンシップ・実習の充実

国内外でのインターンシップを、全学生が体験するプログラム（ハワイ大学との連携によるインターンシップ →別紙1）

◆高度なIT教育

システム工学部の教育実績に基づく、IT教育を徹底して実施

観光学部の概要

(9) 入試状況

①2007(H19)年度観光学科の状況

◆ 志願者・入学者状況

❖ 志願者数： 680名

❖ 入学者数： 80名

※埼玉県・山梨県を除き全国から

◆ 都道府県別入学者数ベスト5

❖ 和歌山県 30.0%

❖ 大阪府 27.5%

❖ 京都府 3.8%

❖ 鹿児島県 3.8%

❖ 富山県・静岡県・愛知県・岡山県・広島県 2.5%

※30道府県から

観光学部の概要

(9) 入試状況

②2008 (H20) 年度観光学部の志願状況について

1 観光学部全体の志願者数

選 抜		募集人員	志願者数	志願倍率	備 考
一般 選抜	前期日程	50	167	3.3	
	後期日程	38	212	5.6	
特別 選抜	推薦入学	20	149	7.5	<1月25日合格発表済み> 合格者数：推薦入学29名、社会人選抜2名
	社会人選抜	2	5	2.5	
計		110	533	4.9	

※ 志願倍率は小数点第2位以下を四捨五入。

2 観光学部志願者の内訳

<性別>

	前期日程	後期日程	推薦入学	社会人選抜	計
男子	64(38.3%)	69(32.5%)	51(34.2%)	3(60.0%)	187(35.1%)
女子	103(61.7%)	143(67.5%)	98(65.8%)	2(40.0%)	346(64.9%)
計	167(100.0%)	212(100.0%)	149(100.0%)	5(100.0%)	533(100.0%)

<志願者の在籍高校等の所在する都道府県>

都道府県	前期	後期	推薦	社会人	計	都道府県	前期	後期	推薦	社会人	計
北海道	1	1	1		3	滋賀県	3	1	1		5
青森県	1	1	2		4	京都府	4	6	2		12
岩手県						大阪府	42	70	29	1	142
宮城県			1		1	兵庫県	8	12	9		29
秋田県		1			1	奈良県	6	8	6	1	21
山形県	1	1			2	和歌山県	51	55	33	3	142
福島県		1			1	鳥取県	2	2	1		5
茨城県		4	1		5	島根県			1		1
栃木県	1				1	岡山県	2	2	7		11
群馬県		3			3	広島県	1	2	3		6
埼玉県	1	1			2	山口県	1				1
千葉県	1	2	2		5	徳島県	3		5		8
東京都	1	1			2	香川県	3	2	3		8
神奈川県						愛媛県	5	1	6		12
新潟県		1			1	高知県	1	1			2
富山県	1	1			2	福岡県	3	2	1		6
石川県						佐賀県			2		2
福井県	3	2	3		8	長崎県			2		2
山梨県	1	1	1		3	熊本県			3		3
長野県		2	3		5	大分県			1		1
岐阜県	4	5	2		11	宮崎県	2	2	6		10
静岡県	4	4	3		11	鹿児島県		2	2		4
愛知県	5	4	5		14	沖縄県			1		1
三重県	5	7	2		14	合計	167	212	149	5	533

※ 社会人選抜については、在住地に計上。

観光学部の概要

(9) 入試状況

③2009 (H21) 年度観光学部の志願状況について

1 全体の選抜状況

選 抜		募集人員	志願者数 (志願倍率)	受験者数 (受験倍率)	合格者数 (競争倍率)	入学手続 者数
一般 選抜	前期日程	50	116 (2.3)	107 (2.1)	53 (2.0)	46
	後期日程	38	346 (9.1)	160 (4.2)	44 (3.6)	34
特別 選抜	推薦入学	20	147 (7.4)	146 (7.3)	35 (4.2)	35
	社会人選抜	2	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0
計		110	609 (5.5)	413 (3.8)	132 (3.1)	115

2 合格者の内訳

(1) 性別

	前期試験	後期試験	推薦入学	社会人選抜	計
男子	17(32.1%)	10(22.7%)	7(20.0%)	0(0.0%)	34(25.8%)
女子	36(67.9%)	34(77.3%)	28(80.0%)	0(0.0%)	98(74.2%)
計	53(100.0%)	44(100.0%)	35(100.0%)	0(0.0%)	132(100.0%)

(2) 合格者〔志願者〕の出身高校の所在する都道府県

都道府県	前期試験		後期試験		推薦入学		社会人選抜		合計	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
北海道	1	0	—	—	2	1	—	—	3	1
青森県	—	—	1	0	—	—	—	—	1	0
岩手県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宮城県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
秋田県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山形県	1	0	1	0	—	—	—	—	2	0
福島県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
茨城県	—	—	3	0	—	—	—	—	3	0
栃木県	—	—	2	0	—	—	—	—	2	0
群馬県	—	—	2	0	—	—	—	—	2	0
埼玉県	—	—	1	0	1	0	—	—	2	0
千葉県	1	1	1	0	1	1	—	—	3	2
東京都	—	—	1	0	1	1	—	—	2	1
神奈川県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
新潟県	—	—	2	0	—	—	—	—	2	0
富山県	—	—	3	0	2	0	—	—	5	0
石川県	—	—	6	0	1	0	—	—	7	0
福井県	2	0	9	2	3	1	—	—	14	3
山梨県	1	1	—	—	1	0	—	—	2	1
長野県	—	—	3	2	—	—	—	—	3	2
岐阜県	—	—	11	2	4	1	—	—	15	3
静岡県	1	1	9	1	3	1	—	—	13	3
愛知県	1	0	11	3	2	2	—	—	14	5
三重県	1	0	4	0	4	2	—	—	9	2
滋賀県	—	—	3	0	1	0	—	—	4	0
京都府	4	2	7	0	3	1	—	—	14	3
大阪府	52	22	101	10	46	5	—	—	199	37
兵庫県	8	6	32	4	15	6	—	—	55	16
奈良県	2	0	12	0	8	2	—	—	22	2
和歌山県	27	13	80	17	21	4	—	—	128	34
鳥取県	2	1	3	0	1	0	—	—	6	1
島根県	—	—	2	0	—	—	—	—	2	0
岡山県	—	—	7	1	7	2	—	—	14	3
広島県	2	1	4	0	1	0	—	—	7	1
山口県	—	—	4	0	—	—	—	—	4	0
徳島県	1	0	5	1	4	1	—	—	10	2
香川県	—	—	3	0	—	—	—	—	3	0
愛媛県	—	—	3	1	2	0	—	—	5	1
高知県	—	—	1	0	1	0	—	—	2	0
福岡県	1	1	3	0	1	0	—	—	5	1
佐賀県	1	0	—	—	—	—	—	—	1	0
長崎県	2	1	3	0	1	0	—	—	6	1
熊本県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大分県	—	—	1	0	2	1	—	—	3	1
宮崎県	1	1	—	—	2	2	—	—	3	3
鹿児島県	4	2	2	0	4	0	—	—	10	2
沖縄県	—	—	—	—	2	1	—	—	2	1
計	116	53	346	44	147	35	0	0	609	132

※ 大検合格者等は、居住地に計上。

観光学部の概要

(10) 卒業後の進路

観光エグゼクティブ・プロデューサー

観光・地域プランナー

～ひろがる進路の可能性～

旅行関連産業

ベンチャー企業の創設

国際機関・企業

行政や地域づくり団体など

大学(観光学部)の役割

大学・観光学部

教育

観光人材の輩出

研究

観光学の確立

行政

地域・
経済界

- ※観光産業の振興
- ※地域再生の推進とそのモデル構築
- ※観光の学問体系の確立
- ※その他

政府・政界からの支援

◆ 国会議員

- ❖ 二階俊博氏 衆議院議員・経済産業省大臣
- ❖ 鶴保庸介氏 参議院議員
- ❖ 竹中平蔵氏 慶應義塾大学教授（元参議院議員・総務大臣）
- ❖ 他の県選出議員の支援

◆ 文部科学省（本学来学者・職位は来学時のもの）

- ❖ 伊吹文明氏（文部科学大臣）
- ❖ 結城章夫氏（文部科学省事務次官）
- ❖ 清水 潔氏（文部科学省高等教育局長）
- ❖ 徳永 保氏（文部科学省大臣官房審議官（高等教育局担当））
- ❖ 藤原 誠氏（文部科学省高等教育局法人支援課長）

◆ 国土交通省

- ❖ 「観光未来プロジェクト」に採択
- ❖ 谷口博昭氏 国土交通省技監からのシンポジウム支援
- ❖ 柴田耕介氏 国土交通省国土交通審議官からの支援

◆ 経済産業省

- ❖ 集客交流人材のあり方

◆ 県議団

- ❖ 「観光学部（仮称）設置」支援議会決議、国に陳情（H17.7.7）
- ❖ 自民党・公明党 県議団の支援

地域からの支援

◆ 新学部創設の支援組織

- ❖ 「和歌山大学観光系学部設置促進協議会」設立
和歌山県・和歌山市・県商工会議所連合会・県観光連盟
- ❖ 「和歌山大学観光学部設置促進期成同盟会」結成
和歌山県内 25団体

◆ 新学部設置の要望書

- ❖ 和歌山県・和歌山市・商工会議所

◆ 様々な支援

- ❖ 和歌山県（平成17年度700万円）署名活動
- ❖ 商工会議所婦人部会による署名運動
- ❖ 文部科学省への陳情（H17.6.9 徳永審議官訪問）

◆ 知事からの積極的支援

産官学の協力支援

◆ 国際シンポジウム（H17. 5. 28）

《21世紀型観光を展望する》

- ❖ 二階俊博 元運輸大臣・衆議院議員（当時）
竹中平蔵 内閣府特命担当大臣（経済財政政策）/郵政民営化担当・参議院議員（当時）
- ❖ 和歌山県知事、和歌山市長
- ❖ 徳永保 文部科学省大臣官房審議官（高等教育局担当）（当時）
- ❖ 地元企業からの財政支援
 - 株式会社島精機製作所
 - ノーリツ鋼機株式会社
 - 株式会社オークワ

◆ 観光シンポジウム（H18. 12. 9）

《観光立県和歌山の扉を開く

～和歌山大学観光学科新設への期待～》

◆ 観光学科開設記念式典及び国際シンポジウム（H19. 6. 2）

《観光を科学する》

◆ 観光シンポジウム（H19. 12. 16）

《和歌山の観光のこれからを考える

～和歌山大学観光学部開設を記念して～》